


履 歴 書			
ふりがな ちょん そくいん 氏 名 鄭 碩仁			
1997年 4月 3日生 (満 24歳)			※ 女
ふりがな とうきょうとねりまくたかのだい1ちょうめ13-21たかのだいぱーく ほーむず 402ごう 現住所 〒 177-0033 東京都練馬区高野台1丁目13-21 高野台パークホームズ 402号			電話 080-4858-2840 E-mail sukin.k.chung@gmail. com

年	月	学歴・職歴（各別にまとめて書く）
		学歴
平成27年	6	Christian Academy in Japan 卒業
平成27年	9	早稲田大学 国際教養学部 入学
令和元年	9	早稲田大学 国際教養学部 卒業
		職歴
平成28年	2	インターTOMAS (アルバイト入社)
平成28年	12	インターTOMAS (アルバイト退社)
平成29年	1	LineGate (アルバイト入社)
平成30年	9	英会話 Cafe & Bar ANNEX (アルバイト入社)
平成31年	3	英会話 Cafe & Bar ANNEX (アルバイト退社)
		インターンシップ
平成30年	3	第一精工株式会社 (インターン)
令和2年	1-7	JPholic株式会社 (インターン)

年	月	免許・資格
		日本語能力試験 JLPT N1
		TOEIC 955
		TOEFL iBT 100

自己PR

幼い頃から多様な文化を経験しながら育った私は、韓国語、日本語、英語の3ヶ国語を身につけることができました。しかし、多文化や異文化の経験を通して得たことの中で私が最も誇りに思うことは、多様性を理解し、多様な文化や思想に共感できるバックボーンを持つ大人になったということです。加えて、グローバルなリアルトレンドを常に把握していることが私の強みだと信じています。多様化が加速している現代社会であるからこそ、より必要となってくる多様性の理解、そしてその多様なニーズに対する対応というアビリティを身につけていることに自信を持っています。

学生時代の課外活動

早稲田大学での部活動は私が学生時代全力を注いだ分野であり、学びを得たフィールドであります。私が所属していた部活は、「HANPYEON」というコンテンツクリエイターコミュニティでした。撮影部、ライティング部、編集部、SNSプロモーション部の中で、ものづくりが好きな私は学生雑誌のページをデザインする編集部の一員になりました。「HANPYEON」に入部し、初めてAdobe Illustratorというツールに出会いました。最初は、ツールの使い方を全く知らず、苦勞していた頃を未だにはっきりと覚えています。しかし、チームメイトや先輩から見慣れてない部分を教わり、皆共にチームワークを活かしながら、楽しく作り上げました。そして、2018年には編集部のチームリーダーとして選ばれ、自分の成長を実感し、リーダーシップを磨くこともできました。「HANPYEON」の一員としての時間はかけがえのない経験です。

職務経歴書(インターンシップ)

氏名 鄭 碩仁 (チョン ソクイン)

【職歴要約】

JPholic株式会社

2020年の1月から7月までWEBマーケティングカンパニー、JPholic株式会社に新規SNSアカウントの立ち上げと運営を経験しました。メディアの立ち上げから1ヶ月半が経過した頃、TikTokで1万人以上のフォロワーを達成し、Instagramでは約2500人のフォロワーを獲得し、以降も新しいコンテンツを企画し、制作してメディアを拡大させました。

【職務経歴】

期間	業務内容
2020年 1月～ 2020年 7月	<ul style="list-style-type: none">・新規SNSアカウント運営・集客 (すべてのコンテンツの企画と製作を含めた新規SNSメディア作りとそのメディアの拡大。)・翻訳・ウェブサイト制作ツールを利用したeコマースのウェブサイトのデザイン・製作など

【資格・特技】

- コンテンツの企画と製作
- SNSを活用した集客
- Adobe illustrator

【言語】

- 韓国語 (母国語)
- 日本語 (ネイティブレベル)
- 英語 (ネイティブレベル)

【職務内容・活かせる経験】

2020年1月末から7月末の6ヶ月間、WebマーケティングカンパニーJPholic株式会社にインターンとして仕事をしました。私に与えられた主な業務は、新規メディアディで、すべてのコンテンツの企画と製作を含めた新規メディアの立ち上げとメディアの拡大でした。

会社では、Instagramを活用し運用する指示を受けました。Instagramで **Kalon.** (カロン) という名で新規メディアを立ち上げて間もなく、限られた時間内により多くのユーザーにリーチしたい意欲が強かった私はもう一つのプラットフォームを活用することにしました。そして、私が選んだ第二のプラットフォームは **TikTok** でした。

当時、ターゲットユーザーである若い世代の日本人の TikTok 利用率が上昇中であり、TikTok では音楽も一つの手段として活用できること、そして比較的高いリーチ率を獲得できる点を把握した上、直ちにTikTokのメディアを立ち上げました。各メディアプラットフォームの特徴を工夫しながらユーザーのニーズや反応に応じたコンテンツを企画し、製作し、提供して行きました。そして、メディアを立ち上げてから1ヶ月半経った頃、TikTokではフォロワー1万人以上を達成し、Instagramのフォロワー約2500人を獲得し、以降も新しいコンテンツでメディアを成長させました。

Kalon.の運用意外も、翻訳事業やウェブサイト制作ツールを利用したeコマースのウェブサイトのデザイン・製作などの様々な業務を経験しました。JPholic株式会社でのインターンシップを通して、私は「推進力」の重要性を身を持って学びました。キャリアを形成して行く始点に立っている私であるからこそ、自分の強みとポテンシャルを信じ、「自ら推進力を持ち、恐れずにやってみる」ことの重要性を半年間、実際の業務経験と結果を通して、身を以て実感しました。